



地域医療連携ニュース



Pickup!

- ・ 病院長就任のご挨拶
- ・ 副院長就任のご挨拶

- ・ 診療科長就任のご挨拶
(循環器内科、放射線科、救命救急科)

病院長就任のご挨拶

2025年4月1日付で昭和医科大学藤が丘病院病院長に就任いたしました鈴木 洋です。私の専門は循環器内科であり、循環器救急医療を中心に診療を行いながら、前病院長である高橋 寛先生のもとで6年間副院長を務めて参りました。

昭和大学は今年度より昭和医科大学と校名を変更しました。医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部を擁する医系総合大学であるということとを校名からも発信し、社会に貢献できる優れた医療人を育成する大学として更なる発展を目指します。この様な節目の年に病院長を拝命し責任の重さを痛感しております。

藤が丘病院の重要な役割として、横浜市北部地域の地域医療支援病院としての機能があります。地域医療連携室では、スムーズな患者の受け入れを実現するため、約2年前から医療機関専用の電話回線を開設しましたが、さらなる迅速な対応へ引き続き努力をまいります。



藤が丘病院
病院長 鈴木 洋



また、一人の患者さんを当院とかかりつけ医の先生とで診療をする二人主治医制をより推進し逆紹介数を増やしていきます。一方、当院は救急指定病院（2次、3次）として救命救急センターを開設しております。横浜市のみならず他地域からの重症患者を積極的に受け入れており、心臓ホットラインや脳卒中ホットラインも設け、24時間迅速な救急医療を提供できる体制を整えておりますが、今後さらなる充実を図ります。ホットラインは救急隊のみならず近隣の先生方からの直接の電話もお待ちしております。また、横浜市の災害拠点病院でもある当院は、発災時の拠点として毎年大規模な防災訓練を行政や医師会の方々のご協力を得て実施しており、現在は一部の病院建物の耐震補強工事も実施中です。

藤が丘病院は、1975年7月に開院し今年で開院50周年を迎える節目の年ですが、老朽化が進み病院機能にも影響がではじめており、建替え計画が進んでいます。現在、藤が丘駅前地区再整備基本計画のもとに、駅前施設・病院・公園が一体となった新たなまちづくり計画が進行しており、病院を含めた藤が丘駅前地区の活性化が期待されています。

今後も藤が丘リハビリテーション病院と一体となり、職員一同とともに地域の医療の発展に貢献したいと思っておりますのでご協力をよろしくお願い致します。

副院長就任のご挨拶



藤が丘病院
副院長 井上 嘉彦

2025 年 4 月より昭和医科大学藤が丘病院の副院長に就任いたしました井上嘉彦です。

私は 1993 年に昭和大学を卒業後、昭和大学藤が丘病院にて内科研修を開始し、その後、昭和大学藤が丘病院腎臓内科に入局しました。当時、藤が丘病院にはリウマチ・膠原病内科が存在せず、何でも診てやろうという思いで、リウマチ・膠原病疾患の診療にも従事しておりました。2020 年度の藤が丘病院内科再編に伴い、内科の一分野として内科（リウマチ・膠原病）が新設され、リウマチ・膠原病の診療責任者となりました。2 年間の他院での研修、2 年半の米国留学以外は救命救急センターでの勤務を含めて藤が丘病院一筋で働いてきており、藤が丘病院の変遷を熟知しております。

藤が丘病院の重要な役割には、横浜北部地域の中核となる地域医療支援病院としての機能を発揮することがあげられます。そのため、地

域の医療機関では対応の困難な専門的な治療を提供できるよう円滑に患者さんの受け入れを実現すること、また、一人の患者さんを当院とかかりつけ医の先生とで診療する“二人主治医制”を活用し、さらに地域医療機関と連携した診療を推進してまいります。その他にも救急指定病院（2 次・3 次）として、迅速な救急医療を提供できる体制を充実し、横浜市の災害拠点病院としての機能の整備、維持にも努めてまいります。

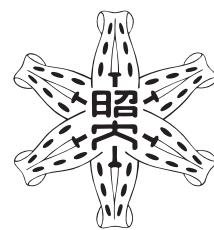
今年度藤が丘病院は開院 50 周年を迎えます。また、昭和大学藤が丘病院から昭和医科大学藤が丘病院と名称が変更となりました。診療責任者として内科（リウマチ・膠原病）での地域医療の皆様とのさらなる繋がりの強化のみならず、内科系診療センター長としても、新病院長の鈴木洋先生のもと、みなさまから信頼される藤が丘病院となるよう努力してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。



昭和医科大学に校名変更いたしました！

2025 年 4 月 1 日、昭和大学は「昭和医科大学」に校名を変更いたしました。昭和大学は、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部を擁する医系総合大学であることを校名からも発信し、社会に貢献できる優れた医療人を育成する大学として更なる発展を目指します。

校名変更に伴い、病院名も以下のとおり変更となりました。



昭和医科大学

昭和大学藤が丘病院



昭和医科大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院



昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院

診療科長就任のご挨拶①

循環器内科の診療科長を拝命しました礒と申します。当院は三次救急からリハビリテーション病院での回復期医療まで一貫した診療体制を整えており、当科では急性心筋梗塞や致死性不整脈など循環器救急への迅速な対応はもとより、心臓リハビリに至るまで責任を持って診療しています。

冠動脈カテーテル治療や不整脈治療、画像診断、心臓リハビリに精通した専門医が在籍し、意欲ある若手医師とともに、循環器病のトータルケアおよび先進的医療の導入に積極的に取り組んでいます。また、心臓血管外科との緊密な連携体制のもと、高度で安全な医療を提供できるよう日々研鑽を重ねております。

今後も地域の中核病院として、患者様および近隣の先生方に信頼いただける循環器内科を目指してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



循環器内科 診療科長
准教授 礒 良崇



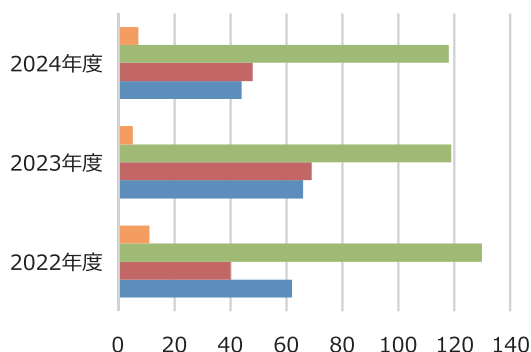
	2022年度	2023年度	2024年度
冠動脈インターベンション	289	350	366
末梢血管治療	76	92	79
補助循環用ポンプカテーテル	—	11	20
カテーテルアブレーション	154	158	141
ペースメーカー植込術	40	55	60
ICD 植込術＋心臓再同期療法	17	20	15
心大血管リハビリテーション	6,057	5,568	6,161



放射線科 診療科長
准教授 竹山 信之

2025年4月より、放射線科診療科長として着任しました、竹山信之と申します。私は横浜市瀬谷区出身で、2000年に昭和大学を卒業後、昭和大学医学部放射線医学教室へ入局しました。2004年に大学院卒業後、配置転換され、2005年3月から昭和大学藤が丘病院で勤務しています。2013年には約1年間、米国 UCLA Radiology of the abdominal Radiology and intervention へ留学の経験があります。2019年～2023年には昭和大学医学部放射線医学教室で複数回の勤務、2024年には昭和大学横浜市北部病院での勤務の経験があります。この度、2025年4月から昭和医科大学藤が丘病院で勤務しております。

放射線科は画像診断とIVRを行います。最新の知見・技術による医療レベルの底上げを目指し、多くの診療科と横断的に連携をとりながら、日常業務に従事しています。



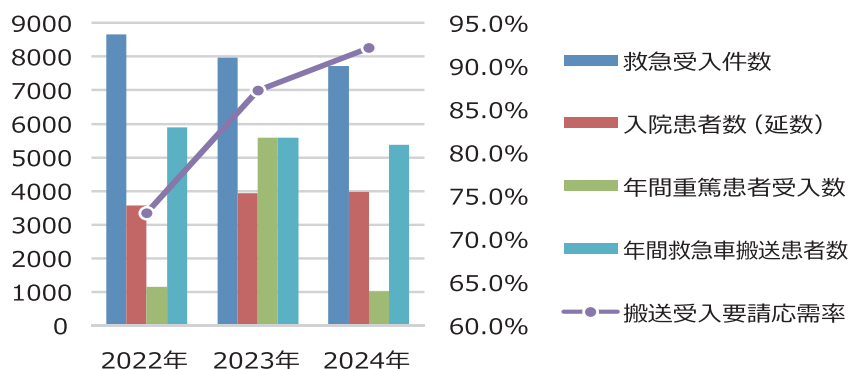
診療科長就任のご挨拶②



救命救急科 診療科長
教授 宮本 和幸

はじめまして。2025年4月より、救命救急科診療科長および救命救急センター長を拝命いたしました、宮本和幸と申します。2004年に産業医科大学を卒業し、昭和大学病院・藤が丘病院・北部病院で救急・集中治療に従事してまいりました。2024年10月からは5年ぶりに藤が丘病院に復帰し、懐かしいスタッフや新しいスタッフと仕事をしています。

当院の救命救急センターは、救命救急センター充実度評価でS評価を受け、救命救急科と院内の出向医師の協力を得て運営されています。青葉区は横浜市の中でも高齢化が急速に進んでおり、地域住民や周辺医療機関からの救急需要は非常に大きいと感じています。地域の救急医療は、救命救急科だけでは完結せず、周辺医療機関および院内診療科との顔の見える連携が重要です。今後も地域医療機関の拠点として、横浜市北部地域の医療に貢献していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



当日緊急性のある患者さんのご紹介について

心臓ホットライン：070-5557-6035

- ・急性心筋梗塞などの緊急疾患が疑われる場合ご連絡ください。
- ・循環器内科の医師が24時間365日対応させていただきます。

脳卒中ホットライン：070-5015-3585

- ・脳卒中など緊急疾患が疑われる場合ご連絡ください。
- ・脳神経外科医もしくは脳神経内科医が24時間365日対応させていただきます。

上記以外の疾患を疑われる場合：045-974-6571

- ・上記地域医療連携室へご連絡ください。直接医師同士でお話いただくことも可能ですので、必要な場合はお申しつけください。
- ・時間外(17:00～翌8:30)、日曜日、創立記念日(11月15日)は救命救急センターにつながります。



昭和医科大学
藤が丘病院

地域医療連携ニュース 6号(2025年7月発行)
〒227-8501 神奈川県横浜市青葉区藤が丘1-30
地域医療連携室 TEL: 045-974-6571 FAX: 045-974-4325



藤が丘病院

